

平成16年9月

# 発泡酒の酒税 減税要望について

**発泡酒の税制を考える会**

ホームページ <http://www.happoshu.com>

会 長

**池田 弘一**

会員会社

アサヒビール株式会社

キリンビール株式会社

サッポロビール株式会社

サントリー株式会社

オリオンビール株式会社

# 発泡酒の酒税 減税要望について

## はじめに

発泡酒は、誕生以来、今日に至るまで製造各社のたゆまぬ経営努力により、品質も向上し、庶民の酒として広く愛飲されていますが、発泡酒の酒税は他の酒類と比べて著しく高率・高額であり、極めて不公平であります。

昨年の増税で他の酒類との税負担格差が一層広がり、発泡酒愛好者は飲用量を減らさざるをえない等、大きな不利益を被り、製造各社は売上減になる等、大きな打撃を受けています。

私どもとしては、発泡酒の酒税の大幅な減税を強く要望いたします。

# 1

発泡酒の酒税は、他の酒類に比べて著しく  
高率・高額であり、極めて不公平であります。

# 2

昨年の増税により、発泡酒愛好者は飲用量を  
減らさざるをえない等、大きな不利益を被り、  
製造各社は売上減になる等、大きな打撃を受  
けています。

# 1

**発泡酒の酒税は、他の酒類に比べて著しく  
高率・高額であり、極めて不公平であります。**

**1** 本来、税制は公平、公正であるべきものと考えますが、  
発泡酒の酒税は、国内の他の酒類と比較して極めて高く、  
不公平なものとなっています。

**2** アルコール分1度当りの酒税額を比較すると、発泡酒の  
アルコール分1度1リットル当りの酒税額は約24.4円であり  
群を抜いて高額であります。[参照:図1]

**3** 350ml当りの酒税額を比較しても、発泡酒の酒税額は、  
約47.0円でやはり他の低アルコール酒類に比べて高額で  
あります。[参照:図2、3]



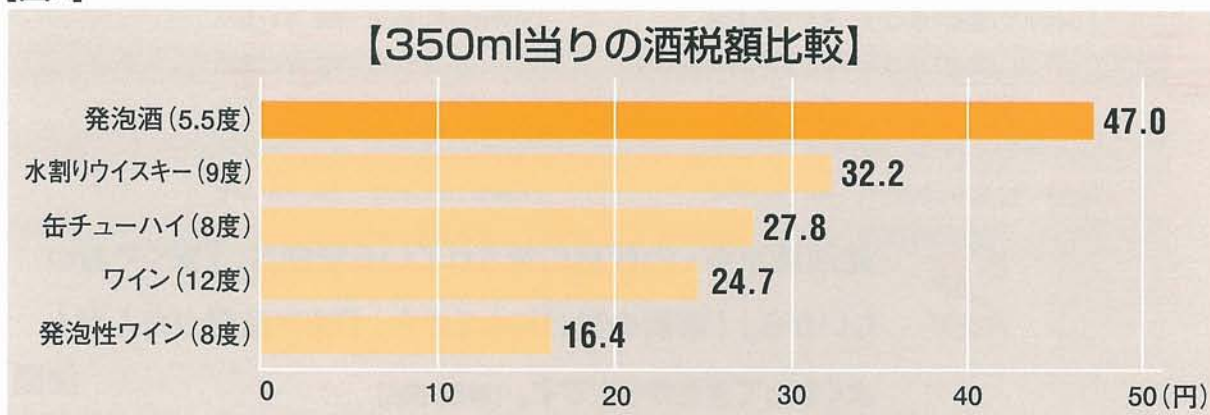
**つきましては、発泡酒の酒税を大幅に引き下げることにより、  
他の酒類との酒税負担格差の是正を図っていただくことが  
必要であります。**



[図1]

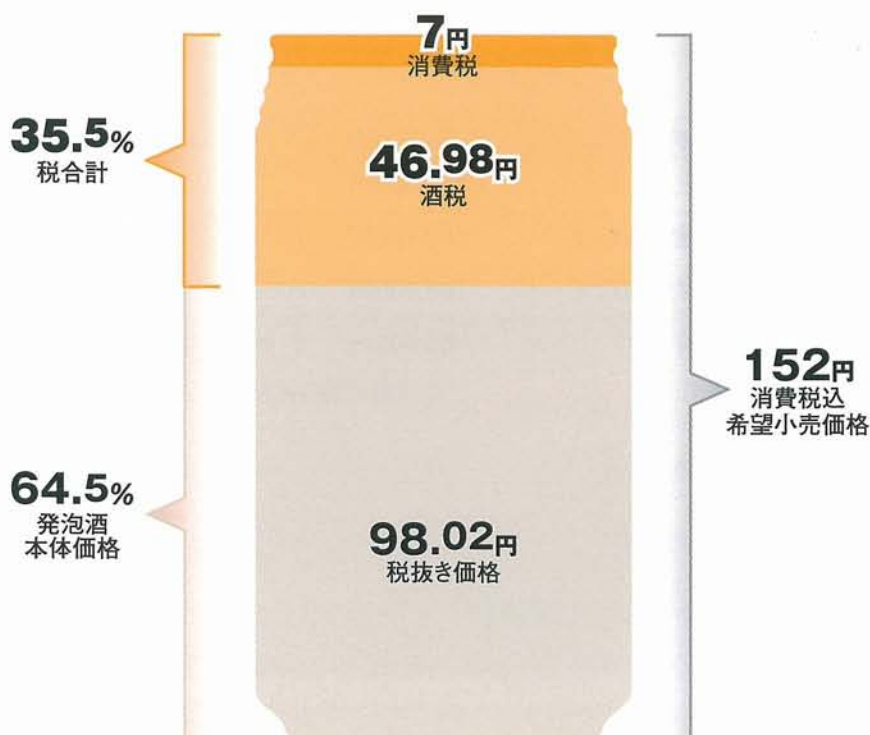


[図2]



[図3]

【発泡酒350ml缶1缶当りの税負担】



昨年の増税により、発泡酒愛好者は飲用量を減らさざるをえない等、大きな不利益を被り、製造各社は売上減になる等、大きな打撃を受けています。

**1** 発泡酒は、平成6年に誕生し、今日に至るまでたゆまぬ研究開発、設備投資、マーケティング活動等、経営努力を行ってきた結果、品質も向上し、家庭で最も愛される酒となりました。[参照:図4、5]

**2** 発泡酒が多くの皆様に愛されている理由は、「安くておいしいから」「家計の助けになるから」「味や品質がだんだんよくなってきたから」です。[参照:図6]

### 【発泡酒の税率の推移】

(酒税額/KL)

	麦芽比率	平成6年10月	平成8年10月	平成15年5月
ビール	67%以上	222,000円	222,000円	222,000円
発泡酒	67%未満50%以上	152,700円	※ 222,000円	222,000円
	50%未満25%以上	152,700円	152,700円	※ 178,125円
	25%未満	83,300円	※ 105,000円	※ 134,250円

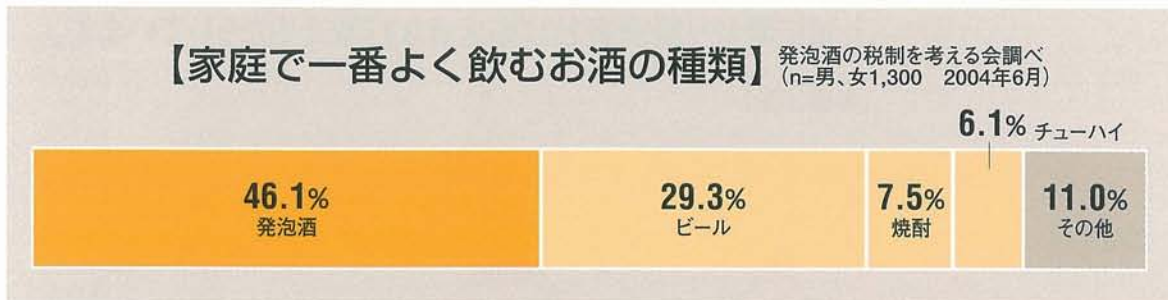
※発泡酒の発売後、2度にわたり大きな増税がなされました。

【図4】

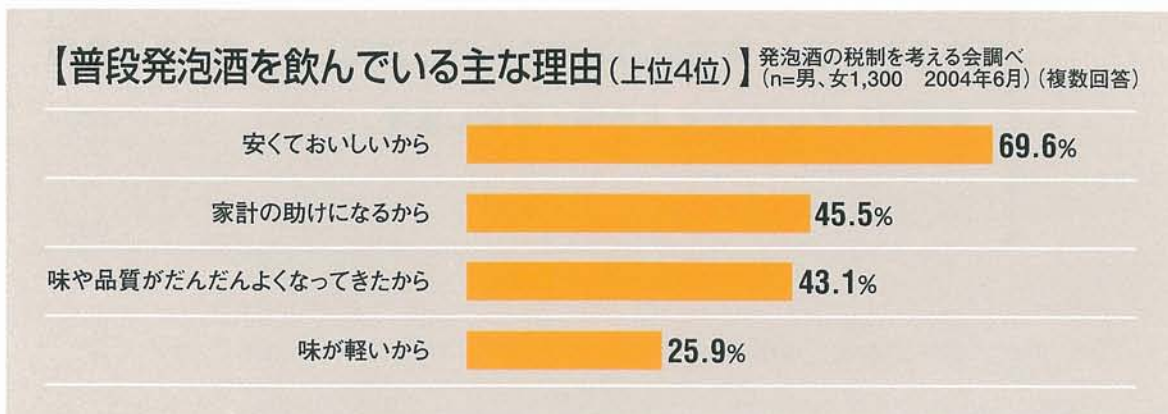
## 【主な発泡酒の発売経緯】

平成6年10月	麦芽比率65%の商品発売(サントリー社「ホップス」)		
平成7年4月	麦芽比率25%未満の商品発売(サッポロ社「ドラフティ」)		
平成8年10月	発泡酒税制改正		
平成15年5月	発泡酒税制改正		
平成8年5月以降	各社麦芽比率25%未満の主な発泡酒発売時期		
平成 8年 5月	サントリー社「スーパーホップス」	平成 9年 6月	オリオン社「アロマトーン」
平成10年 2月	キリン社「麒麟 淡麗〈生〉」	平成10年10月	サッポロ社「プロイ」
平成11年 6月	サントリー社「マグナムドライ」	平成12年 5月	サッポロ社「冷製辛口」
平成12年12月	オリオン社「スペシャル辛口生」	平成13年 2月	アサヒ社「本生」
平成13年 3月	サッポロ社「北海道生搾り」	平成13年10月	サントリー社「ダイエット〈生〉」
平成14年 2月	キリン社「極生〈ゴクナマ〉」	平成14年 2月	サントリー社「マグナムドライ〈爽快仕込〉」
平成14年 4月	キリン社「淡麗グリーンラベル」	平成14年 4月	サントリー社「炭濾過 純生」
平成14年 6月	サッポロ社「樽生仕立」	平成14年 6月	サントリー社「スーパーマグナムドライ」
平成14年 8月	オリオン社「鮮快生」	平成15年 2月	キリン社「淡麗〈アルファ〉」
平成15年 2月	アサヒ社「スパークス」	平成15年 3月	キリン社「生黒」
平成15年 3月	サッポロ社「北海道生搾り(ハーフ&ハーブ)」	平成15年 6月	サントリー社「楽膳」
平成15年 7月	アサヒ社「本生〈アクアブルー〉」	平成16年 2月	キリン社「ハニーブラウン」
平成16年 2月	オリオン社「麦職人」	平成16年 3月	アサヒ社「本生〈オフタイム〉」
平成16年 3月	サッポロ社「麦100%生搾り」	平成16年 7月	キリン社「小麦」
平成16年 7月	アサヒ社「フルーツブルワリー」		

【図5】



【図6】





# 2

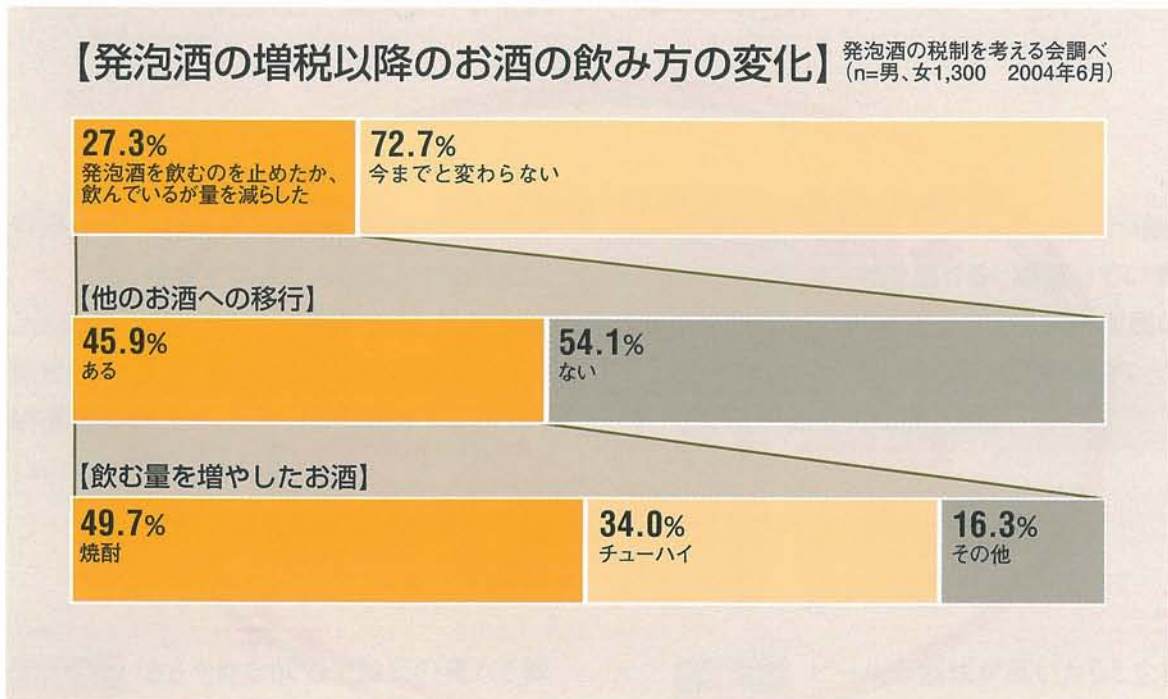
**3** 発泡酒の増税により、約3割もの家庭が発泡酒の飲用量を減らさざるをえなくなり、約7割の家庭は支出金額が増える結果となっています。このことは、“庶民のお酒”である発泡酒の愛好者が、大きな不利益を被っていることを裏付けています。[参照:図7]

**4** また、平成6年発売以来、8年間連続して伸長市場だったのが、昨年初めて前年を割り込み、特に増税前の1~4月前年比113%に対し、5~12月前年比が94%と約20ポイントもダウンしました。本年の上半期を見れば、前年比89%と更に厳しい状況となっています。その結果が飲用量減・売上減に繋がり製造各社にも大きな打撃をもたらしています。[参照:図8]

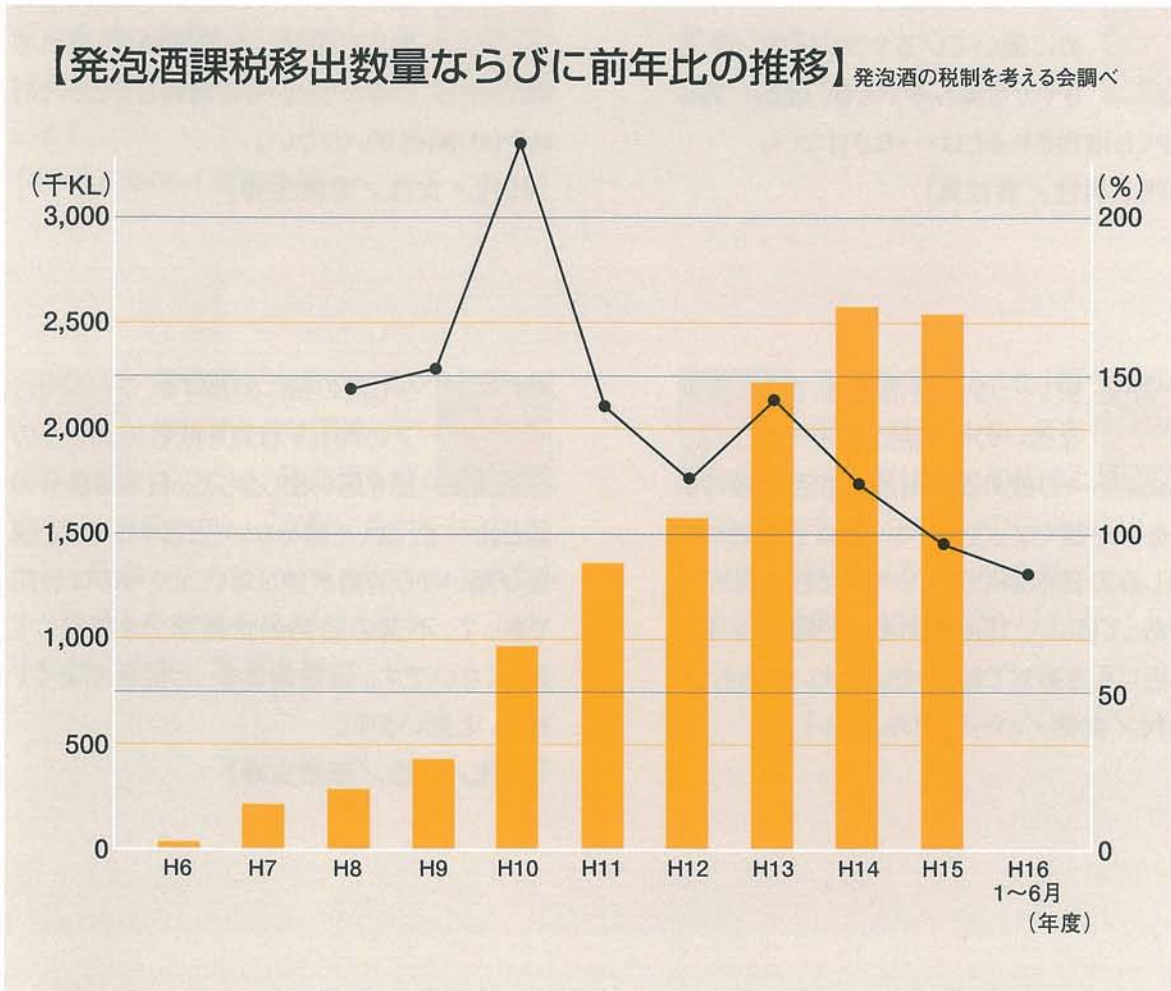


つきましては、発泡酒の酒税を大幅に減税して、消費者の負担を軽減していただくよう強く要望します。

[図7]



[図8]





# CONSUMERS'

## 消費者の

CONSUMERS' VOICE

## 皆様の声



ガラス張りの給与体系の下でまじめに働いているサラリーマンの、ささやかな楽しみである。晩酌に対して、かくも増税されるとは・・・なさけない。

[40代／男性／会社員]



企業が安くて美味しい商品をと努力して開発した発泡酒を、売れているからといって増税したというのはやはり納得がいかない。

[40代／女性／専業主婦]



安い・うまい発泡酒は、まさに身近な憩いの必需品。安心そして、スッキリ飲める発泡酒。生活全般のあらゆる税が高くなっていく中、せめて、ささやかな楽しみが発泡酒ぐらい、いつまでも庶民の味方であってほしい。1日の疲れを癒す楽しみをもっと身近に引き寄せてもらいたいと大いにおもう。

[40代／女性／パート・アルバイト]



少し前の話になりますが、ワールドカップの時に、お酒を飲む外人さんの話を思い出しました。日本は自分の国と比べて、高くて飲めない、という話です。税金が高いから消費が伸びない、というのは当然であって、不況の時勢の企業努力を無視して欲しくありません。発泡酒はもっと税金が安くても良いと思います。

[30代／女性／専業主婦]



税金を、このような嗜好品に大きな負担を掛けるのは適正ではない。他の税金でもそうだが、税金に上乗せして税金が加算されるのは、どう考えても納得出来ない。

[30代/男性/会社員]



庶民の、くつろぎが少しずつ削られていると感じる。頑張っている、日本の経済を支えている庶民の生活をこんなに無視してもよいのだろうか。

[30代/女性/専業主婦]



ささやかな飲酒で毎日の疲れを取るという方は多いのではないのでしょうか?嗜好品だから税金を掛けやすいと考えている人もいるかもしれませんが、国民の生活に密着した、ささやかな贅沢を取り上げるような行為は行わないで欲しいと心から思います。

[30代/女性/専業主婦]



ビールの酒税が高いからと企業が努力をして、味もかなりおいしいところまで出来たからこそ、国民に受け入れられたのに、売れるから増税というのは納得がいかない

[30代/女性/専業主婦]



発泡酒が売れているからと言って増税するのは間違っていると思う。だいたい、発泡酒を好んで飲む人の中には「安いから」「家計に負担にならない」と言う理由の人も多いはず。そういった人たちから税金を多くとるのはどうかと思う。

[20代/女性/専業主婦]



家で自分だけでなく親も飲むので酒代が結構かかってます。もう少し安ければいいのになと思うことが結構あります。もとは安いのに税金でどんどん高い飲み物になっているような気が...

[20代/女性/パート・アルバイト]